

その25

近代岩室村の先覚者・伊藤左武郎

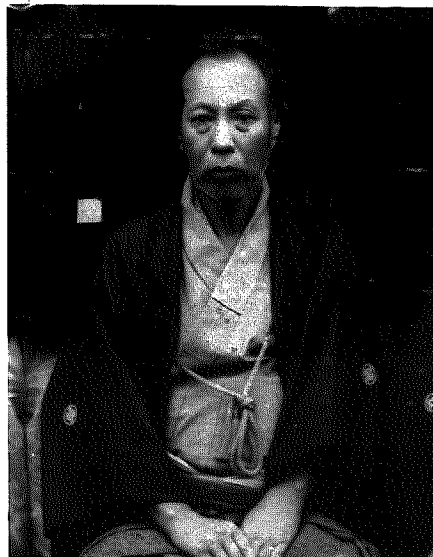
■今月の「ふるさと再発見」シリーズ第二十
五回目は、明治期に和納の庄屋、割元、
戸長などを務めながら村の指導者として活躍
し、それに当時の自由民権運動の推進者であ
った伊藤左武郎氏について、西川町に在住の
本間惺一さん（西川竹園高校長・岩室村史作
成時調査員）から二寄稿いただきましたので、
ご紹介します。

明治という時代は、日本にとって近
代の黎明期であり、国民は新しい時代
の創造に向かって全力を傾注した希望
の時代でありました。日本の近代化を
達成するうえで大きな役割を果たした
人々は、日本歴史上に名を残している
著名人だけではありません。彼らを側
面から支えた地方の無名の人々の努力
や功績を忘れてはなりません。そして、
郷土の発展と振興を図るには、郷土の
生んだ先覚者の苦闘やその生き方を発
掘して、これを学ぶことが必要ではな
いでしょうか。

私は、先年縁あって岩室村史の調査、執筆、
編集に参加させていただき、その際に幕末か
ら明治中期にかけて、和納村の庄屋・割元・
戸長・副大区長を務めて、さらに県会議員を
二期（明治十三年から十八年まで）歴任した
伊藤左武郎氏のことについて調査し、昭和四
十九年三月に上梓された『岩室村史』に掲載
しました。その際は、時間的制約もあり不十
分な調査のまま執筆してしまい、今も心残り

に思っています。そして、今後機会をみて調
査してみたいと考えているところです。

伊藤左武郎氏が岩室地方で頭角を現わすよ
うになったのは、明治三年に開始され八年に
廃止された第一次大津分水のときに、県庁
と地元民との間に立って工事の推進役となり、
その有能さが認められてからであります。そ
して、彼が新しい時代の理解者として、地域
の啓蒙者としての地位を獲得したのは自由民



権運動でありました。

自由民権運動は、明治七年、土佐の板垣退
助らが薩長藩閥打破を叫んで「民権議院建立
建白書」を政府に提出し、自由と民権を求め
て立ちあがったのが始まりです。これを契機
に、自由民権運動は全国に波及し、村々の名
望家が多数参加しました。このとき新潟県で
も、上越の鈴木昌司・小山宋四郎、下越の山
際七司らとともに和納村の伊藤左武郎氏も国

会開設運動に参加しました。そして、伊藤氏
は、明治十年に創設された「新潟新聞」に投
稿。その中で伊藤氏は、明治十三年の国会開
設懇望協議会の開設に積極的に参加し、「新潟
新聞」紙上で「同議者ヲ県下適宜ノ地ニ集會
シ国会開設懇請ノ一團結ヲ誓約スルヲ以テ今
日ノ急務トス」と提言して、県下の国会開設
運動の組織化に大きな役割を果たしました。
この成功が、県内の自由民権運動を活気づけ
ることになりました。

また、伊藤左武郎氏は地域にあ
っては、啓蒙団体「責善会」を結
成し、新聞雑誌の購求、演説会の
開催などを行い、住民の啓蒙に力
を注ぐとともに、地租改正事業、
小学校の建設、村会の開設等に指
導的役割を担い、村の近代化に貢
献しました。

▲明治期に和納村の庄屋、割元などを務めながら、
各種事業・工事の指導者として、また自由民権
運動推進者として活躍した伊藤左武郎氏。

り知られていないようです。最後に、郷土の
先覚者伊藤左武郎氏の生涯を、岩室村の人々
の手で掘り起こしてほしいと願っています。

本間さんには、今回のご寄稿ほんとうにあ
りがとうございました。ところで、広報いわ
むろでは、皆さんの地区に伝わる歴史や昔話
（写真）などがありましたらご紹介したいと思
っていますので、どんどん応募ください。

岩室甚句日本一全国大会

日本一は吉田町の
楡井フサ子さんに
（おらがやう若いとき、
弥彦まいる）。第四回目を
迎えた「岩室甚句日本一全
国大会決勝大会が、先月二
十四日に村民体育館で開催
されました。

岩室温泉の顔でもある「岩室甚
句」の普及と保存伝承を図り、観
光地「岩室」を全国に売り込もう
と始められたこの大会。



▲甚句、日本一に輝いた楡井フサ子さん

今回新たに設けられた地元コン
テストの部では、住吉実さん（岩
室）が一位に選ばれました。

また、予選を勝ち抜いた七十名
で競われた決勝大会では、吉田町
の楡井フサ子さんが見事日本一の
座に輝きました。なお、二位は和
納九区の笠井光男さん、三位は福
島県の斎藤文子さんでした。